

初台リハビリテーション病院

認知症予防プログラムを開始しました。

2022年度、渋谷区高齢者福祉課より委託され、「認知症に備える、脳とからだの健康講座」を9月7日より開始しました。週1回(全8回)の講座で、渋谷区民を対象に、運動プログラム50分(渋谷区オリジナル体操)、座学プログラム20分(各種専門家による講義)、知的プログラム50分(各種認知機能を刺激する活動)計120分間で行っています。区民の認知症啓発および、行動変容や参加機会拡大に寄与できるよう取り組んでいます。



船橋市立リハビリテーション病院

今年も緑のカーテンこと、ゴーヤの栽培を行いました。

専門業者のアドバイスのもと、土の入替え・追肥・毎日の水やりの量などを調整し、丁寧に育てました。おかげで多くのゴーヤの収穫ができました。そして今年も船橋市主催のキャンペーン「緑のカーテン&エコノートキャンペーン」に応募しました。グリーンカーテンによる日よけ効果で電気の使用量を減らし、二酸化炭素の排出抑制、エコにつながる取り組みとして、今後も続けていきたいと思っております。



船橋市立リハビリテーションセンター

出前講座再開について

2022年6月から、新型コロナウイルスの影響により一時休止していた「出前講座」を再開しました。再開第一弾は清水山シニアクラブにて、「寝たきりにならないためのリハビリとは？」をテーマに、第二弾はオレンジカフェひまわりにて「寝たきりにならないためのリハビリ～今日からできる飲み込み力アップ講座～」を実施しました。コロナ禍でも地域の皆さまのお役に立てるよう感染対策を実施した上で、活動を拡大し実施して参ります。



在宅総合ケアセンター元浅草

第13回 多職種事例検討会 開催報告

9月9日(金)第13回目となる多職種事例検討会をオンライン形式で行いました。今回は『虐待』をテーマに専門職としてどのような関わりができ、どのような役割を發揮することができるのか事例検討しました。事例を基に行ったグループワークでは虐待事例を発見した際に新たな視点の気づきや自身の考え方の幅を広げること、また他職種との連携を今後どのように展開していくことができるか? 皆さまと意見交換をすることができました。また虐待についてのレクチャーを台東区役所福祉部介護予防地域支援課の関真理子様にご協力いただきました。



在宅総合ケアセンター成城

2階3階のLED改修工事を行いました。

当院では、SDGs(CO2削減)への取り組みとして7月に2階外来3階病室エリアのLED改修工事を行いました。2階は昼白色、3階は暖色を基調とし蛍光灯と比較しても明るく目に優しい色になっております。患者さま、利用者さまからも「明るくなった」「温かみが増した」との評価を頂き、来年度は1階通所リハビリエリアも実施する予定です。今後も環境に配慮し地域の皆さまに信頼される病院作りを目指してまいります。



2021年度クリニカルインディケータについて

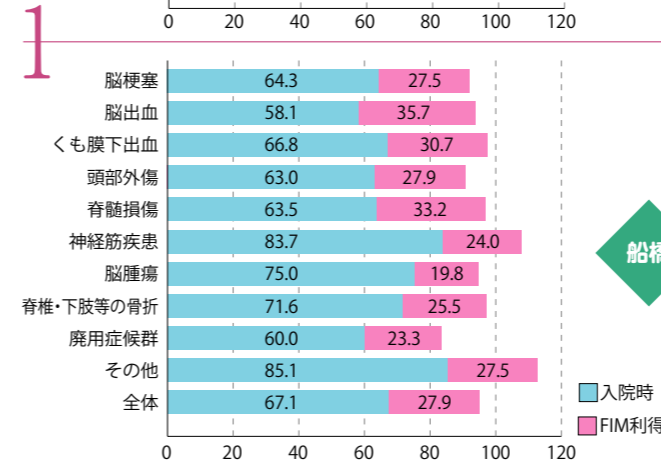
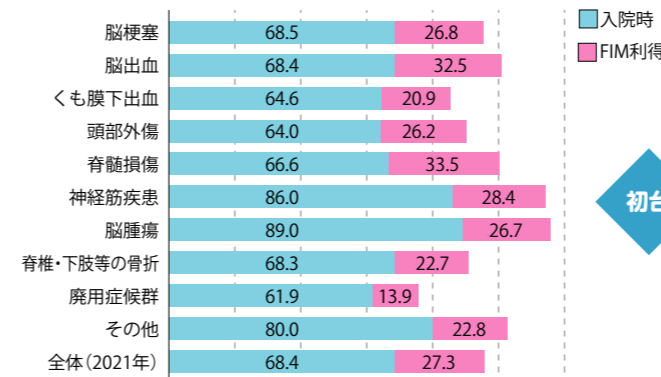
初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院の「2021年度クリニカルインディケータ」を、ホームページに公開しました。クリニカルインディケータの指標のうち以下の2つについて、2021年度の結果に基づきご説明いたします。

1【ADLの改善(FIM利得)】

FIMとは、日常生活の自立度を示した指標です。数字が高いほど自立していることとなります。入院時と退院時のFIMの差を「FIM利得」といい、数字の差が大きいほど改善されたこととなります。

$$\text{FIM利得} = \text{退院時FIM} - \text{入院時FIM}$$

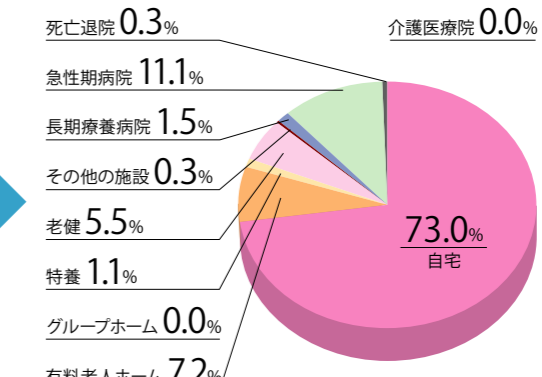
2021年度 FIM利得の結果は、平均で初台リハビリテーション病院は27.3点、船橋市立リハビリテーション病院は27.9点となりました。



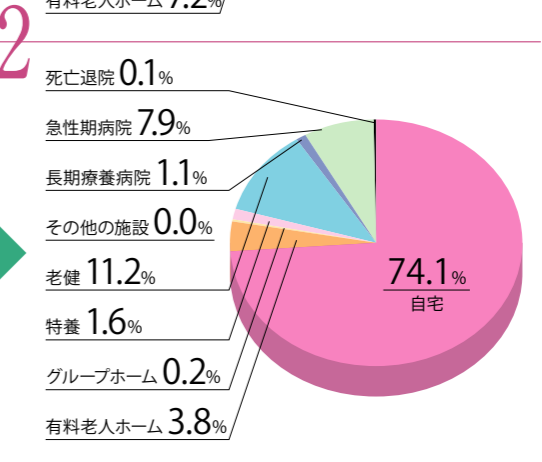
2【最終退院先(在宅復帰率)】

入院した患者さまが、当院でリハビリテーションを受けた後、退院された先を表したグラフとなります。回復期リハビリテーション病棟は、厚生労働省の基準において、退院先が自宅(有料老人ホームなども含む)の割合が7割以上であることと定められています。回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰は大きな使命となります。

$$\text{在宅復帰率} = \frac{\text{自宅(有料老人ホームなども含む)}}{\text{2021年度に退院された全患者}}$$



こうして可視化することにより、医療の質が改善され、向上すると期待しております。また、データを公開することで、患者さま、ご家族の信頼に繋がればと考えております。ぜひホームページをご覧ください。



前方連携の強化に向けて～地域連携支援室～

地域連携支援室創設の背景

初台リハビリテーション病院が開設された2000年代初頭は、まだ回復期リハビリテーション病棟(以下、回復期リハ病棟)の数は少なく、近隣の急性期病院から入院の申し込みが殺到する毎日でした。当時は、発症から2か月以内に回復期リハ病棟へ入院しなければならないという、制度上の厳しいルール(2020年度診療報酬改定にて撤廃)もあり、病院のキャパシティを大きく超える申し込みをいただき、泣く泣くお断りしなければならないことが度々ありました。

それから20年以上が経過し、近隣の回復期リハ病棟の病床数は大きく増え、それとともに急性期病院に入院している患者さまとご家族の転院先の選択肢も広がりました。その一方で、医療の機能分化が進んだことにより、急性期病院は、待たなしで手術や高度な治療を必要とする患者さまを受け入れなければならず、治療が一段落して状態が落ち着いた患者さまは、短い期間で転院先を決めなければなりません。つまり、私たちは、これからも「患者さまに選ばれる病院」であり続けるために、誠実かつ高品質なサービスを提供することに加え、できるだけ速やかに急性期病院から患者さまを受け入れることが求められている、と言えます。

そのような経緯から、地域と病院との橋渡しを担う部署として、2021年度から初台リハビリテーション病院と船橋市立リハビリテーション病院に「地域連携支援室」が設置されました。



初台リハビリテーション病院
地域連携支援室メンバー

船橋市立リハビリテーション病院
地域連携支援室メンバー

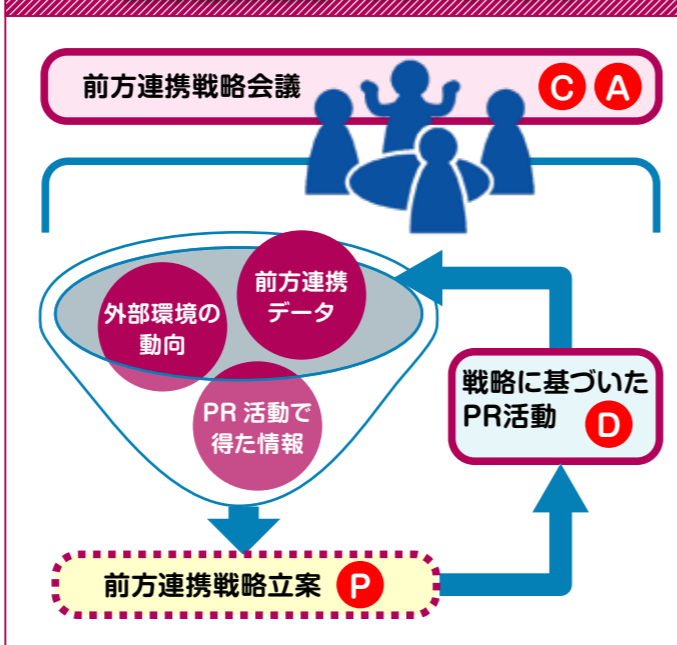
パブリックリレーションズ

地域連携支援室の創設にあたり、パブリックリレーションズ(以下、PR)の概念を軸に置きました。日本PR協会によると、PRとは「社会的組織がステークホルダー(利害関係者)と双方向のコミュニケーションを行い、組織内に情報をフィードバックして自己修正を図りつつ、良い関係を構築し、継続していくマネジメント」とされています。

これを輝生会に置き換えると、輝生会の病院やセンターが、地域住民、急性期病院、関係機関、行政等と双方向のコミュニケーションを行い、病院(センター)内に情報をフィードバックして、病院(センター)が自ら修正を図りつつ、地域住民・関係機関等と良い関係を構築・継続していくマネジメントと言い換えることができます。

輝生会では、このPR活動を、PDCAサイクルに沿って計画的かつ継続的に展開していくために、5つの病院とセンターで「前方連携戦略会議」を毎月開催しています。院長・センター長をはじめとする各拠点の幹部と地域連携支援室のメンバーが出席し、前方連携(紹介)実績データやPR活動実績、PR活動を通して得た情報や外部環境の動向について情報共有するとともに、新たな計画について話し合う等、とても熱のこもった議論が交わされています。

前方連携戦略 PDCA サイクル



船橋市立リハビリテーション病院における前方連携PR活動の一例

急性期病院への訪問活動

定期的に近隣の急性期病院へご挨拶に伺い、退院支援を担当しているソーシャルワーカーや看護師とお会いしています。

当院への紹介実績の説明や当院のサービスを紹介するだけでなく、先方のソーシャルワーカーや看護師が日頃感じている連携の課題や、当院への要望についても教えていただく貴重な機会となっています。また、当院が応えられない要望をいただいたときには、その理由を丁寧に説明することで、病院間の相互理解を深めたいと考えています。コロナ禍により訪問活動が制限されることもありますが、Web会議システムを通して、定期的にディスカッションする機会を設けたり、定期的に病院説明会を開催することで、急性期病院の新任ソーシャルワーカーの方や看護師の方にも私たちの病院のサービスを理解していただけるよう工夫をしています。



Google クチコミへの返信

総務省による通信利用動向調査によると、2020年のインターネット利用率は83.4%であり、情報収集のデジタル化は急速に進んでいます。船橋市立リハビリテーション病院では、インターネットの代表的な検索エンジンの1つ Googleのクチコミに着目しました。そこには、当院を利用された方たちからの温かい励ましの言葉だけでなく、厳しいご指摘も書き込まれています。投稿されたクチコミは、院長をはじめ幹部へ報告するとともに、その1つ1つに真摯にお答えすることで、投稿してくださった方々とコミュニケーションを図っています。

またクチコミを読んで当院の利用を検討している方たちに向けて、輝生会の理念を発信し続けたいと考えています。ぜひGoogleで「船橋市立リハビリテーション病院」を検索して、クチコミをご覧くださいと幸いです。



動画入院相談

これまで、入院前に必ず患者さまのご家族等にご来院いただき、SWとの面接を通して病院の理解を深めていただくとともに、ご家族等の不安が軽減されるよう努めていました。

しかし、急性期病院への訪問活動をするなかで「入院相談のために仕事を休むことに対して、負担を感じているご家族も少なくない」とのご意見をいただきました。

このことを前方連携戦略会議で話し合い、従来通りの来院いただく入院相談の他に、ホームページにアップしている動画を視聴いただくことで入院相談が完了する仕組みを作りました。

2021年1月から開始後、全体の約3割の方が動画視聴による入院相談を利用されており、入院前のご家族等の負担軽減と病院サービスへのアクセスのしやすさに繋がっています。

▼ ホームページ内に設置された動画画面



<https://www.funabashi-reha.com/video/>

おわりに

輝生会を選んでいただくためには、私たちの実践の何が良いのかについて、リハビリテーションを必要とする人たちと関係機関へ、分かりやすく伝える必要があります。そして、私たちに向けられる期待や要望の声に真摯に向き合い、自ら変化していく姿勢も忘れてはなりません。いつの時代も、患者さまと地域に必要とされる医療法人であり続けるために、輝生会はずべての拠点が丸となってパブリックリレーションズ(PR)活動を展開してまいります。

文責：船橋市立リハビリテーション病院 野口陽介